



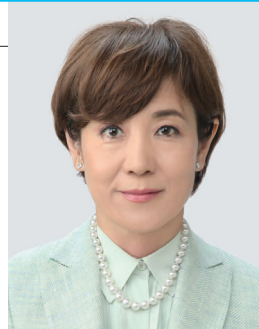
紹介者

平手 智行

グーグル・クラウド・ジャパン
日本代表

安田 結子

ボードアドバイザーズ
取締役副社長



女子ラグビーから学ぶリーダーシップ

スポーツ界においては、女子プロゴルフ選手の海外での活躍が目覚ましい。竹田麗央選手や岩井姉妹の活躍には毎週目が離せない。グローバルな場において高いパフォーマンスを出す日本人アスリートたちからわれわれビジネスリーダーは常に勇気を与えられる。

一方で、あまり知られていないが、日本女子ラグビーの躍進も注目に値する。女子ラグビーというと、熱心なラグビーファンの方でも、「痛々しい」、「女性のスポーツではない」と関心が低いようだが、ワールドラグビーや、日本ラグビーフットボール協会がここ数年最も熱心に取り組んでいる領域でもある。今年、日本の女子7人制は世界ランキング5位という成績に昇りつめ、2028年のロサンゼルスオリンピックの金メダルをゴールに着実に歩みを進めている。女子ラグビーというマイナーなスポーツを地道に支えてきた太陽生命等の企業の経済的支援があったことは大きい。また、早くから国際試合に参加するなど、グローバルでの舞台を多く経験していることも代表選手の育成のキーとなった。谷山三葉子選手のトライが2025年のベストトライに選ばれるなど、グローバルでもトップクラスの選手が生まれる素地になっている。

私が大変感銘を受けたのは、女子7人制の日本代表を率いる兼松由香コーチのチーム作りの精神である。ここではチーム全員がファミリーとしての信頼関係を構築するなどの工夫に加え、「キャプテン交替制」といった仕組みでリーダーの育成を図っている。各試合ごとにキャプテンが変わり、全ての選手がキャプテンを経験することで、チームを率いる立場、リーダーを支える立場の両方を学ぶ経験を通じてより強固なチームワークを実現している。私は女性経営幹部の育成や、コーチング、メンタリングを多く行っているが、この話を聞いたとき、目が開かれたように感じた。日本においては、育った環境や、周囲からの同調圧力もあり、女性はあえてリーダーの役職に就こうとしない傾向がある。リーダーを経験することが、特別なことではなく、全てのメンバーがリーダーを経験することで、われわれ自身が成長し、組織としての成長に貢献できるのだ、という気づきを、またスポーツから学んだのである。

▶▶ 次回リレートーク

浜 直樹

富士フイルム
ビジネスイノベーション
取締役社長CEO